



## 薬物乱用を防止するために知っていただきたいこと

第73回 社明大会講演会資料（2023年9月2日）

金沢保護司会 福井 宏

薬物乱用は、せっかく授かったかけがえのない「いのち」を粗末にしてしまうことです。たった一度使用しただけでも、未来を台無しにしてしまう愚かな行為です。私たちは、ご両親、祖父母、そのまたご先祖と、数えきれないほどの命の繋がりによって、今ここに生きているのです。10代前まで遡ると1,024名、20代前まで遡れば1,048,576名のご先祖が存在し、一人でも欠けたら、私たちは、ここにいなかったのです。今、ここに生きているという感謝の気持ちを忘れずに「いのち」の大切さを伝えていってください。

### ■ 薬物乱用の基礎知識

#### 1) 薬物乱用とは

病気を治すためにお医者さんに行くと薬を処方されます。正しく使って初めて薬としての効果があるのです。薬の過剰摂取（オーバードーズ）や、治療の目的以外で使えば乱用になります。また、覚せい剤、コカイン、MDM A、LSD、大麻、マジックマッシュルームなどの向精神薬、シンナーやトルエンなどの有機溶剤、ヘロインなどのあへん系麻薬、脱法ドラッグ類などの違法薬物は、たとえ一度使用しただけでも乱用になり犯罪になります。

#### 2) 薬物乱用の危険性

薬物を乱用すると、私たちが生きていく上で一番大切な脳や中枢神経が破壊されます。脳は薬物を乱用した時の「快」を覚えていて一度乱用をすると忘れられなくなります。長年薬物を止めていても少しの刺激で使用欲求が復活して、再び使用してしまうというリスクをいつまでも持ち続けることになります。また、フラッシュバックと言って薬物が無くても、疲労、ストレス、アルコールなどにより、乱用した時の精神症状が繰り返し出現します。

乱用により、一時的に気分爽快・意欲・自信・精力が増しますが、心拍増加、血圧上昇、四肢冷感、瞳孔拡散などの症状がでます。一旦依存してしまうと、止めるのが大変で止めたとしても、「警察に監視されている、警察官に追われている」と言うような幻聴や幻覚、妄想や耳鳴り、不眠からくる自傷行為が繰り返され、他人への傷害事件につながることも多くあります。

### 3) 薬物に手を出してしまう原因

虐待、ネグレクト、家庭内暴力、いじめ等の小児期の逆境体験があり、あまり愛情を受けずに育った自己肯定感が低い子どもが薬物に手を出しやすいと言われていています。人間への信頼感が欠如しており、人は裏切るがクスリ（薬物）は裏切らないと思いついで薬物に頼ってしまうケースが多くみられます。未成年者の薬物乱用のきっかけは、先輩などからの誘いが多いいと言われていています。また、痩せられる薬としてダイエットのため使うケースがあります。女性の覚せい剤依存者が重症化しやすい理由の一つになっています。

2022（令和4）年の警察庁の調査では、覚せい剤の検挙者は6,124人で薬物事犯全体(12,142人)の50.4%を占めており、再犯者率が高く68.4%に達しています。10代の覚せい剤の検挙者は2001（平成13）年には、1,000人を割って以降、減少傾向となり、2022（令和4）は103人でした。逆に大麻の検挙者が増えています。

### 4) 大麻の検挙者が増加した理由

大麻事犯の検挙者数は、2014（平成26）年頃より増加傾向に転じて、薬物事犯の44%を占めており覚せい剤に次ぐ状況になっています。2022（令和4）年の検挙数は5,342人で30歳未満では3,765人と70.5%に上り、近年、若い人が急増しています。大麻を初めて使用した年齢層を2017（平成29）年と比較すると20歳未満が36.4%から52.1%に増加しています。容疑者のうち約7割が10～20歳代です。

大麻の入手先を知った方法はインターネット経由が多く、30歳未満で30%以上を占め、20歳未満では42.8%となっています。インターネット経由の90%以上がSNS等のコミュニティサイトによるものです。大麻は脳に作用し、乱用すると記憶や学習能力が低下し、知覚を狂わせる様々な不具合を引き起こします。特に成長期の脳に対して、影響が強いことが判明しています。

大麻は特に、個人で栽培が可能で覚せい剤より安価であることが普及の要因です。また、さらに強い刺激を求めて大麻よりも毒性の強い薬物に手を出す例が多いことから「ゲートウェイドラッグ」と言われています。使用方法も、乾燥大麻を火であぶって吸う他、クッキーやグミに大麻を混ぜた食品や、電子たばこ用の「大麻リキッド」などの種々の流通方法があり、他の麻薬に比べて安易に使用できることが乱用者のすそ野を広げています。

## ■ 薬物乱用についてのQ&A

**Q1：薬物を使っているかどうかは、どのような挙動でわかるのでしょうか？**

A：薬物依存は、外見だけでは分かりません。覚せい剤を使用していると、薬物による拒食症が発現し急に体重が減少しますので、極端に痩せ始めたときには注意が必要です。

**Q2：薬物乱用は違法だと分かっているけども使ってしまうのは何故でしょうか？**

A：薬物の怖さを知らずに好奇心で手を出し、一度使用してしまうと脳の回路が乱されたり、破壊されたりし、薬物の使用が常態化してしまうのです。

**Q3：責任感のある人の方が薬物に手を出しやすいと言う話を聞いたことがあります。その理由は何でしょうか？**

A：仕事への責任感が強い人は自分で悩み、心の問題を解決できず、薬物に依存してしまうことが多いです。また、他人に相談できず自分一人と言う孤独感から逃避するために薬物を使用することが多いと言われています。

**Q4：大学の薬物事件が多発していますが、運動部が多い理由は何だと思いますか？**

A：若い人たちが薬物に手を出すのは、先輩や知人からの誘いがほとんどです。特に大学での体育会系のクラブ活動では、上下関係が厳しく先輩が後輩に強制的に薬物を使用させることが多く、断りきれずに使ってしまうケースが多いのです。

**Q5：アロマセラピーという癒しにお香が使われておりますが、違法薬物が使われているということはないのでしょうか？**

A：大いにあります。アロマオイルやお香やハーブという商品に偽装して違法薬物が使われていることがあります。

**Q6：カナダ、アメリカの一部の州や、タイなどで大麻が合法化されていると聞いていますが、酒やタバコなどと同じように吸って良いということなのでしょうか？**

A：カナダ、アメリカの一部の州などは、薬物吸引率が生涯人口で勘案すると45%にも達します。そのため、全面禁止しても減少させることが難しいので、国家が薬物を管理して、未成年の取り扱いを禁止しながら、20歳以上に

